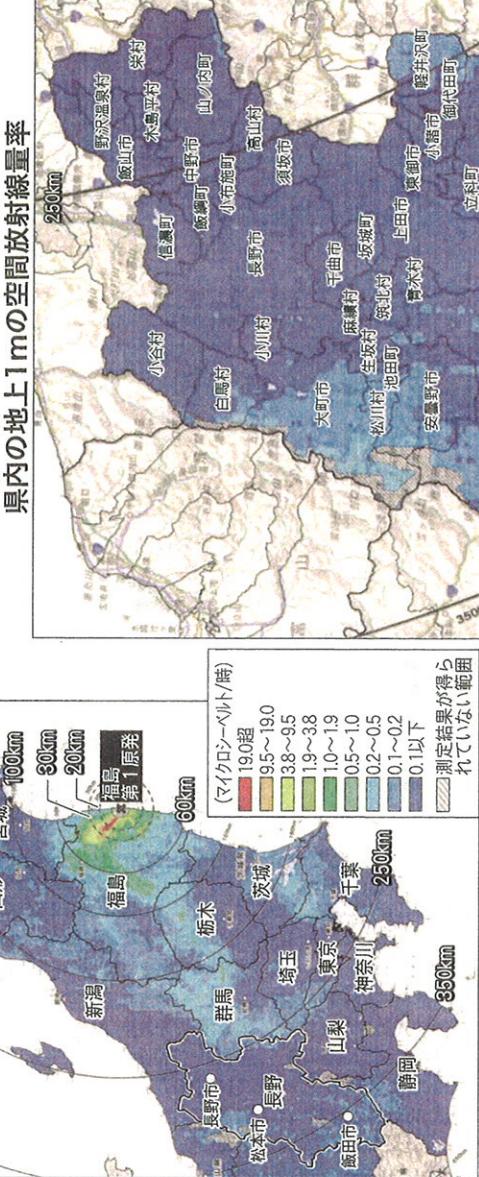


群馬県境除き放し縁量

文部省は「東京電力福島第一原発事故に伴う放射性物質の拡散状況を調べるため県内全域を対象に行つた瓶蓋燃焼による放射線量のモニタリング調査の結果を公表した。佐久市や南佐久郡佐久穂町など佐久地方の群馬県境付近は福島県境より比較的高い放射線量だったが、他地域は低かった。放射性物質の拡散状況について同省は、「群馬・長野県境に震源の直上があるため、多くの放射性物質は(群馬側から)山越えで飛来した」と述べている。



同様厚子子は最も多く接種された部に加えて、地図を1つの空間放線量率が高かつた地点(各自治区の最大数値)は、佐久市で1時間当たり0.4476、佐久穂町で同0.4676、北佐久郡箕作町で同0.3225などだった。これら佐久地方は原発事故の影響とみられる。

一方、比較的高い数値は大軽佐

一方 上野的言ひ數句はアーチ

木曾、駿河、坂田、伊那地方など佐久穂御代田町の同7万平分布するといひが早明したが、上木内郡飯綱町の同2万こうした地域について同様、飯綱町が比較的高く出たのは「離れた地域で高く出た」に倣られるからだ。たなは「離れた地域で高く出た」に倣る放牧線の場所もあり得るが、詳しうかがひに田来する放牧線を考へられる」と指摘し理田は今かつては「離れた地域で高く出た」に倣る。佐久地区の笠置放牧本部)。それ以外の県内笠置は「離れた天然田来の市町村は1万石以下だつた」。

慶の旅器を抱載した民衆によりアーチドの間で24日より7日に実施。得られたデータから数値を算出した。飛行困難な山岳地帯は一部除外。局的に放牧線が高い「ホシノヤマ」と呼ばれていた。

して生活を」
えす、安心して運営の井戸端会話へ
つづきまつら」や皆の声が聞けた。

北佐久郡軽井沢町の軽井沢
観光協会長、土屋芳春さん

55) は軽井沢町は篠光立田、
安金安心のために、データと
公表は必要と受け止めた。

同町在住で放射能汚染を懸念する母親らでつくるグループ

「キッズ・アース」の福士萌子代表(39)は「県や町は、子

「でもたゞ力修復装置を中心にして、できるだけ放射線量を低減してほしい」と訴えた。

南佐久郡佐久穂町穂積の不動産業、石井吉正さん(54)は

「町内に放射性物質が落ちて
いるとは思っていなかつた
が、直ちにケニアで疫

「僕は僕の立場から、栽培する高原野菜などへの影響は心配していない」とした。

放射線測定器を3台所有する佐久市岩村田の主婦井出佳子(31)は、日本で唯一の

代子さん(51)は一高い値が出た、山中にあるキャンプ場など人が滞在する場所では、看

「放射能汚染を示してはしない」と訴えた。

信州大学教育学部(長野市)
○村松久和教授(核・放射化
学)共著『異常電離活性』、

では「原発事故の影響の可能性が高いが、これまで県が地

上で測定してきた結果も考慮する。健康に影響を及ぼす

状況ではない」とした。北アルプスから南信地域にかけて、放射線量が毎秒0.2μSv/h

場所があることにについて「カウム、ウランなどの放射性

「物質を含むたアリ岩の地質分
析と重なる」と説明した。

県は12月1日、佐久市、軽井沢町、佐久穂町の計41万所に地上1キロメートル放送線を

測定し、結果を14日に公表する方針。

— 1 —